

「新臨床内科学」がこのほど出版され、一読する機会を得た。これはその序文に発刊の意図が述べてある通り、従来の内科学書の型を全く破ったものであって、今日の内科学の最新の知識をきわめて要領よくとりまとめたものである。そしてそこにこめられた「年と共に進展して行く内科臨床の知識を簡単明瞭に記載して実地診療に役立てたい」という編集者諸氏の願いがよく達成されていると思われる。

本書の執筆には内科以外の専門家も含んだ133名の方がたが当っておられ、それぞれお得意の領域を分担されていて、要領よく筆を運んでいる。しかも全体の流れがうまく調節されている中で、万遍ないくらい内科学の最近の知識が盛り込まれているようである。

特に私が感銘をうけたのは総論であって、Ⅰ診断総論、Ⅱ治療総論、Ⅲ病歴作成にあたって、Ⅳ新しい診療記録の方法、Ⅴ水と電解質の障害Ⅵ皮膚病変のみかた、Ⅶ眼底のみかた、Ⅷ内科的救急患者のみかた、という項目から成り立っているが、初心者には手をとるように教え、研修医や実地医家にはもう一度自分のやり方を反省させるとともに、また、

□書 評□

「新臨床内科学」

阿部 正和 岡部 治弥
〔編集〕 日野原重明 田崎 義昭
本間 日臣 高久 史麿
〔執筆〕 専門医133氏分担執筆

宮崎医科大学学長・九州大学名誉教授

勝 木 司馬之助

新しい時代の展開に目を醒まさせるように行き届いた解説がなされている。

ことに診断総論、治療総論では、内科医の心構えがいかにあるべきかの医の伝統に基づく基本問題を説き、よどみない達意の名文で読者に対する説得力がある。従来から言われている名医の姿、在り方を浮き彫りにするような感じである。それに続いて新しい病歴のつくり方などが紹介されている。

また各論の分担執筆部分では、今日内科学を修める者として知っておくべき疾患がほぼ網羅されていて、

その概念から治療までの up to date の知識が盛られている。それぞれが専門家の自らの経験を通して整理されたもので、850頁という余り浩瀚とはいえない書物の中に、内容的にはギッシリ詰っているという感じである。もちろん項目によっては今一つ掘り下げてほしいと思われるところもあるが、それぞれの項目別に文献もあげてあるので、それで補うことができるであろう。その他、「今日の治療指針」と密接に関連して編集されているということなので両書の利用によってより便宜が得られよう。

価格が今日の時勢としては reasonable である点は、学生にとっても医師にとっても有難いことのひとつである。今や内科学領域においても新しい情報が氾濫し、取捨選択に迷うほどの時代であるが、本書は実地医家には新知識の再整理に大変役立つものであろうし、学生にとっては内科学を学ぶ基本的な心構えから、現代の問題を知るために大変有用な教科書であろう。広く推奨するに価する新しい型の内科書であると思う。

B5 頁866 図105 写真10
¥ 8,500 千 300
医学書院刊